

けやき台小学校と若葉小学校の統合 及び校舎の建替え方針説明資料

平成 27 年 11 月

立川市

立川市教育委員会

けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替え方針概要

1 請願について

若葉町地区学校保全計画検討委員会は平成 27 年 3 月議会に「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」（請願第 1 号）を提出し採択された。

請願の要旨は、建物の老朽化並びに少子化に伴い、「けやき台小学校と若葉小学校の統合」と共に、「けやき台小学校の敷地に新学校の設立及び新校舎の建設（建替え）」を求めるものである。（パワーポイント資料2,3）

2 学校統合の課題と視点

1) けやき台小学校と若葉小学校の児童数の推計

若葉小学校の児童数は平成 32 年度にかけて増加傾向となる。しかし、けやき台小学校及び両校合わせた児童数は減少傾向となる。若葉町の 7 歳から 12 歳の人口は平成 25 年では 729 人であったが、平成 35 年には 480 人まで減少し、以後も同水準となる。（資料 5,6,7）

2) 小学校の適正規模

立川市における小学校の学校適正規模の基本的な考え方では「小規模校（11 学級以下）及び大規模校（25 学級以上）になった場合は、適切な対策を講ずるものとする。」としている。

また、平成 27 年 1 月 27 日に文部科学省が策定した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」においても 7～8 学級の小学校は統合を含め環境を検討する対象となる。

若葉小学校は平成 32 年度には 11 学級まで増加する推計となっているが、その後は若葉町全体で児童数が減少するため、適正規模に向けた対応が必要となる。（資料 10,11）

3) 通学の安全確保

けやき台小学校までの通学距離を若葉町全域で計算した結果、最も遠い地点で 1.5 km となり、国が定めている通学距離（4 km）の範囲内となる。登下校の際に五日市街道を横断することとなるが地域、保護者、シルバー人材センター等の協力を得て安全を確保する必要がある。（資料 12）



3 学校統合の方針

2 校を統合することにより、小規模校による様々な課題の解消につながるため、けやき台小学校と若葉小学校を統合する。（資料 13）

4 学校建替えの課題と視点

1) 立川市公共施設保全計画

平成 46 年度からの 20 年間は施設の建替え等の費用が年平均 51.7 億円必要となり、「公共施設のあり方方針」では全ての施設を同規模に建替えを行うことは限りなく不可能な状況であると分析している。（資料 14）

2) 大規模改修と建替えの費用比較

けやき台小学校と若葉小学校 2 校それぞれの大規模改修を行い、大規模改修から 25 年程度を経過した後に建替えを行った場合と、両校を統合して 1 校を建替えた場合の費用を比較すると後者の方がより少ない費用で新たな教育環境を整備することができる。(資料 15,16)

3) 教育の新しい展開

施設を 70 年寿命とするため、大規模改修はスケルトンに近い状態で建物、設備を改修する。一方、建替えは第一小学校の例のとおり教育の新しい展開が可能となる。ただし、この 20 年間で全ての学校を建替えることは費用面で困難である。(資料 14,17,18)

4) 建替え場所

両校を比較する中で敷地面積は若葉小学校が広い。しかし、若葉町南東地域から若葉小学校へ通学する場合が最も距離が長くなる。(約 2.0 km) また、校舎を 4 階建てとした場合、けやき台小学校の敷地が建築に適している。(資料 19)



5 学校建替えの方針

2 校の統合を前提としてけやき台小学校の敷地に学校を建替える。(資料 20)

6 その他の課題 (資料 21,22,24)

番号	課題	対応
1	財源計画	平成 31 年度以降の「保全計画」を見直す。
2	学校建替えと新学校の設立	新生小の事例と同様、両校を閉校し新学校を設立する。
3	特別支援学級	通級指導学級と特別支援学級（固定級）の設置課題。
4	建築上の制約条件	けやき台小は「一団地の住宅施設」に指定されている。
5	学校敷地の一部が他市区域	国分寺市議会の議決が必要となる可能性がある。

7 今後のスケジュール 平成 27 年度～33 年度

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
統合 建替え方針	方針決定						
建替え マスタープラン		作成					
基本設計 実施設計			基本・実施設計				
地域説明会	方針説明	マスタープラン・設計説明					
若葉小学校へ一時 移転(新校設立)				若葉小学校を使用し授業実施 (この時点でけやき台小学校と若葉 小学校を閉校し、新たな学校として スタートする。)			
仮設教室 (不足する教室分)			仮設建設				仮設解体
けやき台小学校改修 新学校建設(建替え)	調査	改修		校舎解体	建替え工事(2年)		移転

新生小学校の設立時と同様に2校の児童が平成30年度に若葉小を使用した時から
[新学校]とする。その後、平成33年度に建替えた校舎へ移転する。

けやき台小学校と若葉小学校の統合 及び校舎の建替え方針説明資料



立川市
立川市教育委員会

請願について

平成27年3月議会に2つの請願が提出され、採決の結果「請願第1号」は採択、「請願第2号」は不採択となった。

●請願第1号 ⇒ 採択

請願者：若葉町地区学校保全計画検討委員会

「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」

●請願第2号 ⇒ 不採択

請願者：若葉町教育問題連絡会

「若葉町地区の2つの小学校に関する請願」

請願要旨：若葉町地区の2つの小学校の大規模改修工事は学校での児童の安全を第一に計画通り進めていただくこと。また、若葉小学校は機械的統廃合の対象とせず、児童、保護者、教職員、学区域の住民の合意にそって行うことを要請致します。

請願第1号の要旨

請願第1号の要旨は次のとおりとなる。

—請願要旨—

建物の老朽化並びに少子化に伴い、
「けやき台小学校と若葉小学校の統合」と共に、
「けやき台小学校の敷地に新学校の設立及び
新校舎の建設(建替え)」のお願い。



議会で採択された住民からの「請願」に応えるため、
請願内容の課題を整理し、学校統合と新校舎の建設
(建替え)について方針を策定する。

学校統合と学校建替えの課題の整理

検討における基本方針

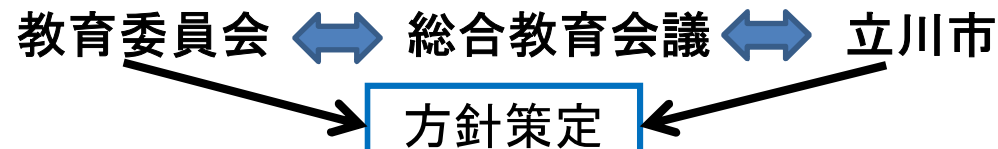
- ・児童の教育条件の改善の観点を中心とする
- ・安全、安心な教育環境を提供する
- ・今後の少子・高齢化社会を見据えた対応を図る。

学校統合の課題と視点

- ・児童数及び学級数の推移と就学予定者数推計
- ・児童の安全、安心な教育環境の確保
(けやき台小学校の当面の改修を含む)

学校建替えの課題と視点

- ・建築上の制約条件の整理
- ・建築スケジュールの策定
- ・財源計画の策定
- ・人口減を見据えた教育の新しい展開

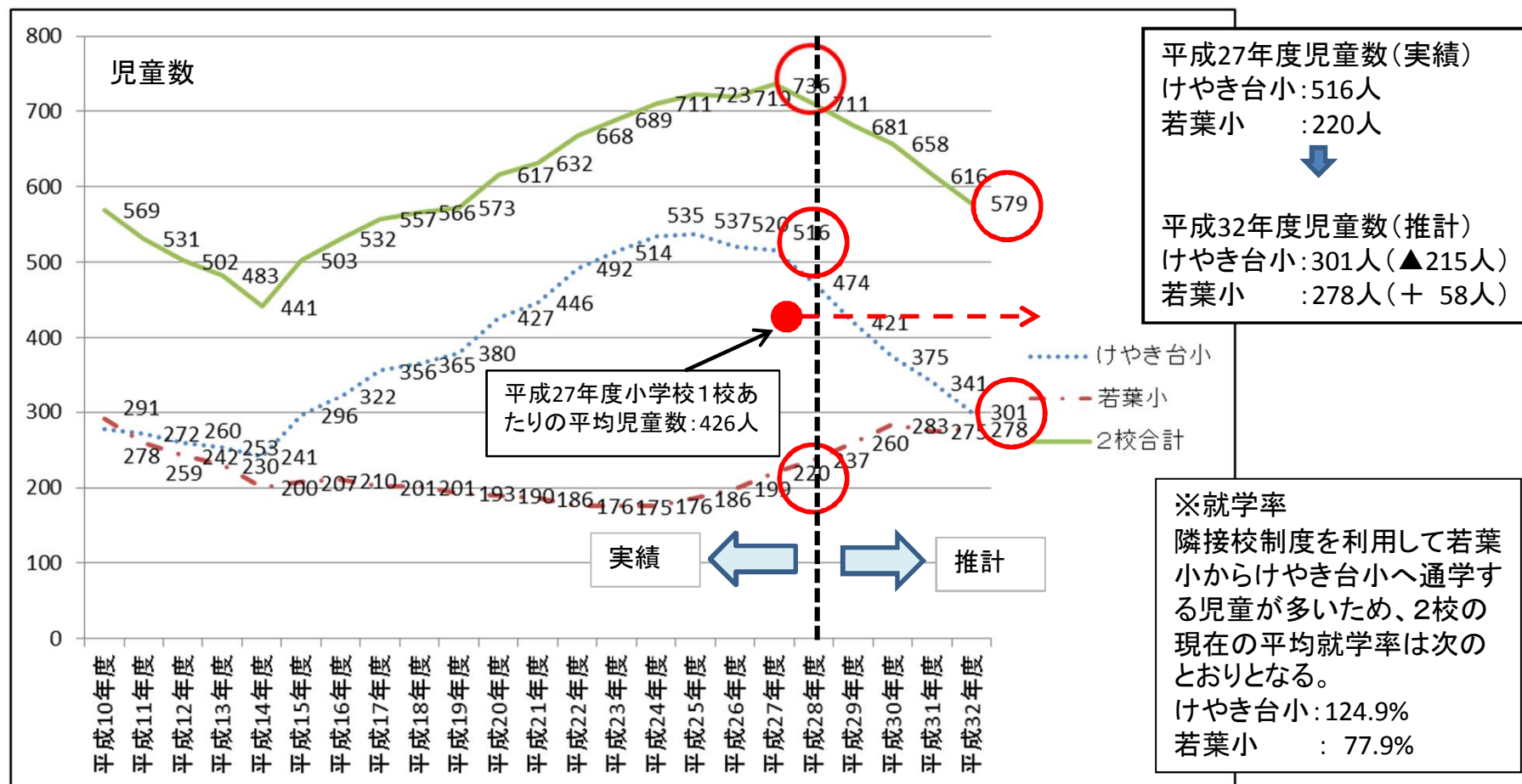


議会及び市民への説明(コンセンサスの形成)

学校統合の課題と視点

けやき台小、若葉小の児童数

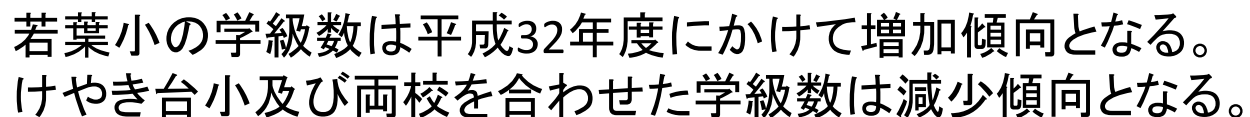
平成10年度～32年度(推計値は就学率による補正なし)



現在の若葉町の年齢別人口より推計しているため、平成32年度までの推計値となる。

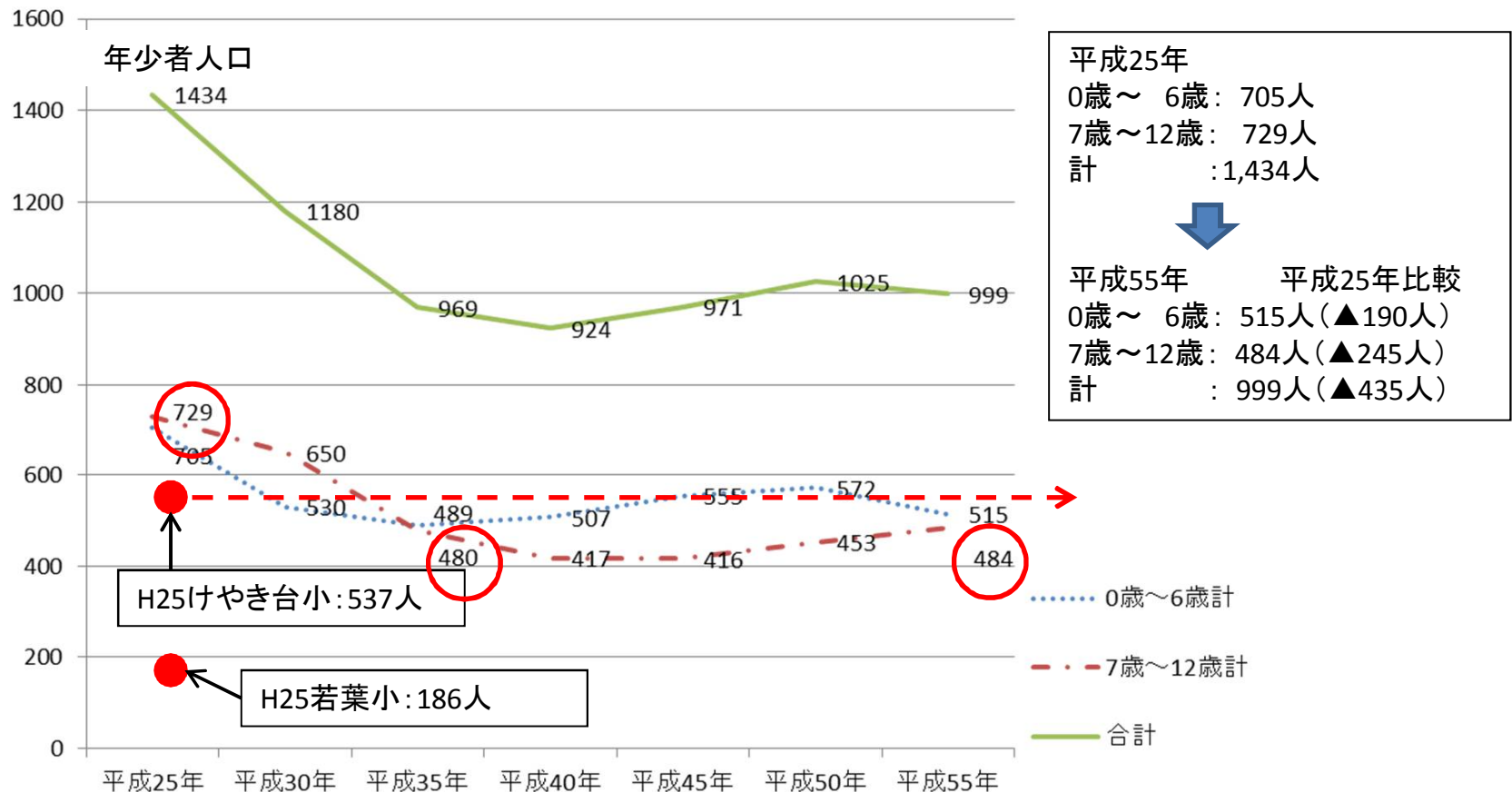
若葉小の児童数は平成32年度にかけて増加傾向となる。
 けやき台小及び両校を合わせた児童数は減少傾向となる。

平成10年度～32年度（推計値は就学率による補正なし）



若葉町全体の年少者人口推計

平成25年度～55年度(30年間)

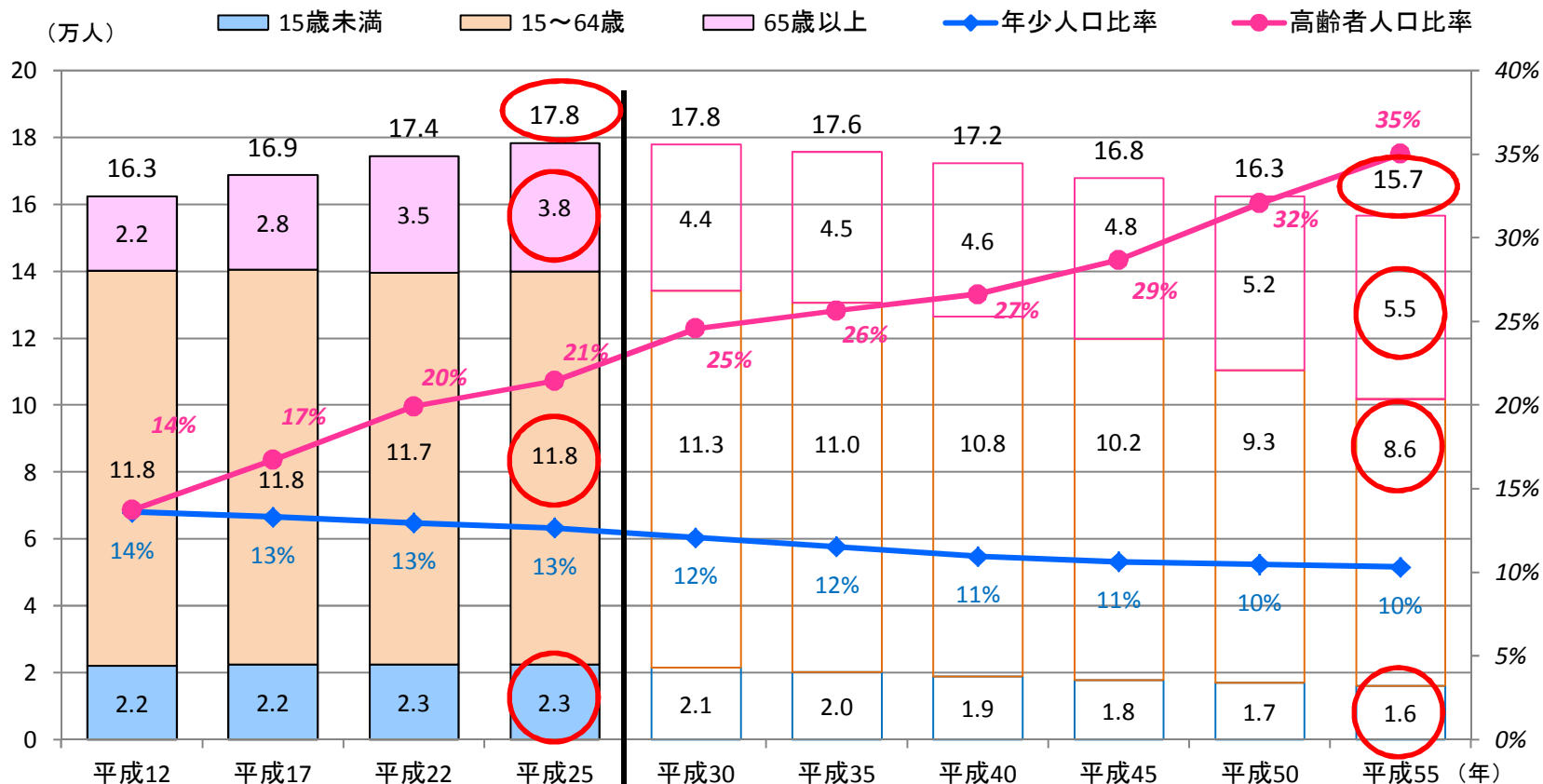


参考：立川市第4次長期総合計画策定のための将来人口推計調査(コーホート要因法による)

若葉町の7歳～12歳の人口は平成35年には480人(15～16学級)まで減少する。生産緑地が宅地転用された場合、一時的に年少者人口が増加する可能性もあるが、全体的な人口減少の流れを変える要因にはならない。

立川市全体の3層別人口構成推移

平成12年～55年



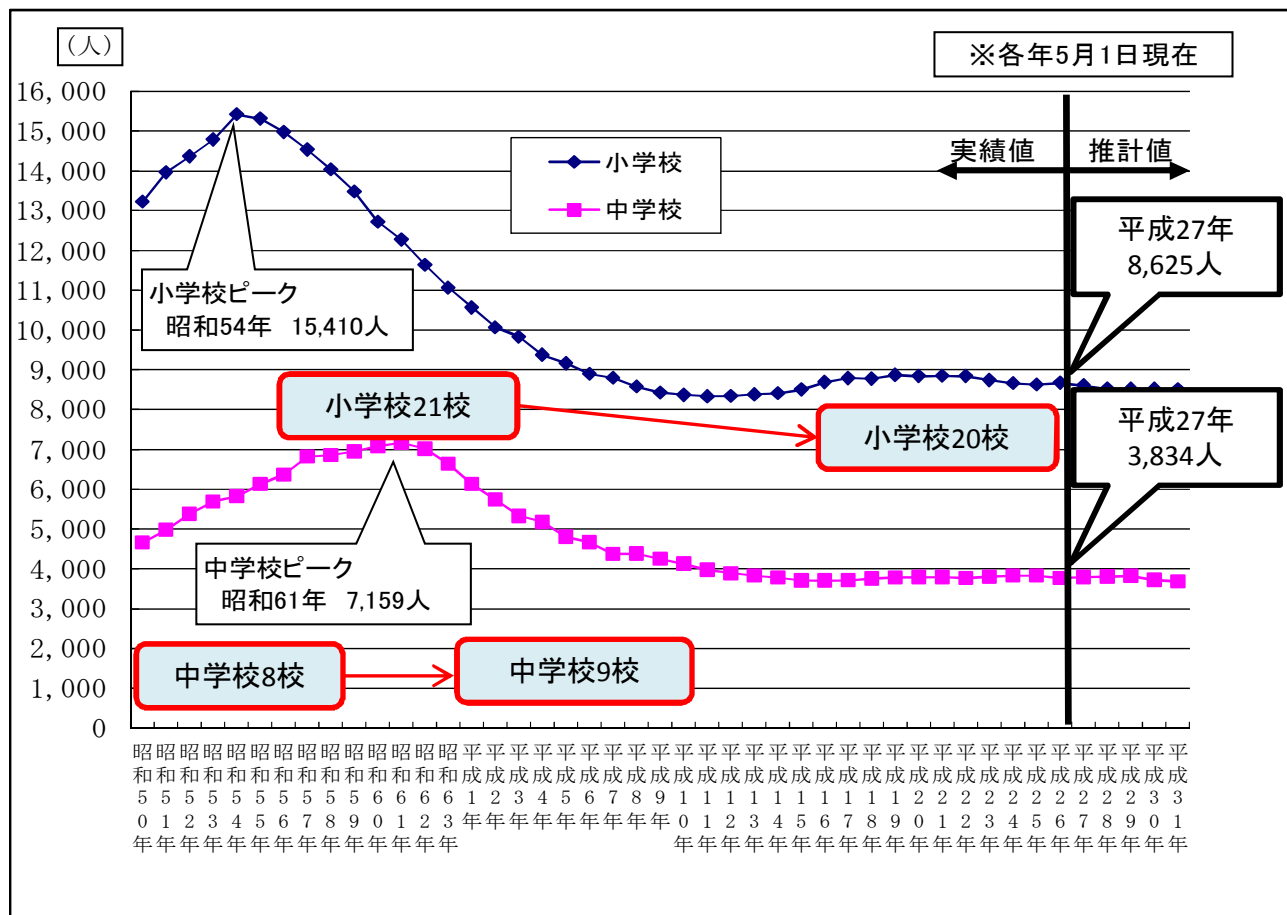
参考: 立川市第4次長期総合計画策定のための将来人口推計調査

立川市の人口のピークは平成27年の約18万人。

平成55年には15万7千人まで人口が減少するが、65歳以上は5万5千人(人口全体の35%)まで増加する。生産年齢人口(15歳～64歳)は8万6千人(55%)まで減少し、15歳未満の人口も1万6千人(10%)まで減少する。

全市児童・生徒数推移と推計

昭和50年～平成31年



平成27年度は小学校児童数のピーク時(15,410人)の約56%(8,625人)まで減少。
 中学校生徒数はピーク時(7,159人)の約54%(3,834人)まで減少。
 児童、生徒数は減少しているが、この30年間学校数はほとんど変化がない。

小学校の適正規模1

「立川市における小学校の学校適正規模の基本的な考え方」

「小規模校(11学級以下)及び大規模校(25学級以上)になった場合は、適切な対策を講ずるものとする。」(平成25年3月22日教育委員会決定)

○小規模校のメリット

- ・一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。
- ・児童の人間関係が深まる。
- ・学校が一体となりやすい。

○小規模校のデメリット

- ・多様な人間関係による児童同士の切磋琢磨する機会が少なく、活気が低下しやすい。
- ・単学級では学年進行にともなうクラス替えが出来ず人間関係が固定化しがちになり、授業や学校行事等におけるグループ編成などが限定される傾向が高くなる。
- ・運動会や学芸会など、集団での活動に制約が生じ、集団による多様な活動が困難になりがちである。
- ・教職員の経験年数や特性など望ましいバランスのとれた教職員配置ができない。

小学校の適正規模2

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」

「手引」(平成27年1月27日文部科学省)では小学校、中学校ともに12～18学級を標準規模としており、標準を下回る場合の対応の目安は次のとおりとなる。

学級数(普通学級)は平成27年5月1日現在

対応区分	小学校	中学校	立川市該当校
標準規模以上	19学級～24学級		西砂小(20学級) 上砂川小(19学級) 五中(19学級)
標準規模	12～18学級		小学校:14校 中学校:5校
今後の子どもの数を予測	9～11学級	6～11学級	六小(11学級) 大山小(9学級)
			六中(10学級) 八中(7学級) 九中(9学級)
統合も含めて環境を検討	7～8学級	4～5学級	七小(7学級) 若葉小(8学級)
統合の適否を早急に検討	6学級以下	3学級以下	該当なし

文部科学省では従来から25学級以上を大規模校、31学級以上を過大規模校とした上で、過大規模校については速やかに解消を図ることを促している。

通学の安全確保

通学距離と五日市街道の横断について



※通学距離

若葉町は東西が約1.4km、南北も約1.4kmであり、南東から北西に対角線を引いた場合、その距離は約2kmとなる。

「通学路」を辿ってけやき台小までの距離を計算した結果、最も遠い地点でも1.5kmとなり、いずれも国が定めている通学距離(4km)の範囲内となる。

【参考】通学距離の長い小学校

- ・第九小学校 : 1.5km
- ・西砂小学校 : 1.5km
- ・幸小学校 : 1.5km
- ・柏小学校 : 1.6km

※五日市街道の横断

若葉町の学区は五日市街道の「南側」がけやき台小学校、「北側」が若葉小学校となっているが、統合した場合、若葉小の児童は通学のため五日市街道を横断することとなる。そのため、横断の際は必ず信号機が設置してある横断歩道を渡るとともに、登下校時は地域、保護者、シルバー人材センター等の協力を得て児童の安全を確保する必要がある。

学校統合の方針

児童数及び学級数の推移 と就学予定者数推計

平成32年度にけやき台小は301人(11学級)、若葉小は278人(11学級)となるが、8年後の平成35年度には両校合わせた児童数(7歳～12歳人口)は480人まで減少することが予想される。

学校規模の適正化

平成32年度では両校ともにほぼ適正規模に近づくが、平成35年度以降は両校ともに小規模校となることが予想される。

立川市の「基本的な考え方」や文部科学省の「手引」における適正規模を保つことは難しく、「統合を含めて環境を検討する」状況となる。

通学距離について

けやき台小と若葉小を統合した場合であっても最長の通学距離は国が定めている4km以下の1.5kmとなり、通学距離に対する児童のストレスが増加への影響は少ない。

五日市街道の横断について

横断の際は必ず信号機が設置してある横断歩道を渡るとともに、登下校時は地域、保護者、シルバー人材センター等の協力を得て児童の安全を確保する必要がある。

2校を統合することにより、小規模校による様々な課題の解消につながるため
けやき台小学校と若葉小学校を統合する

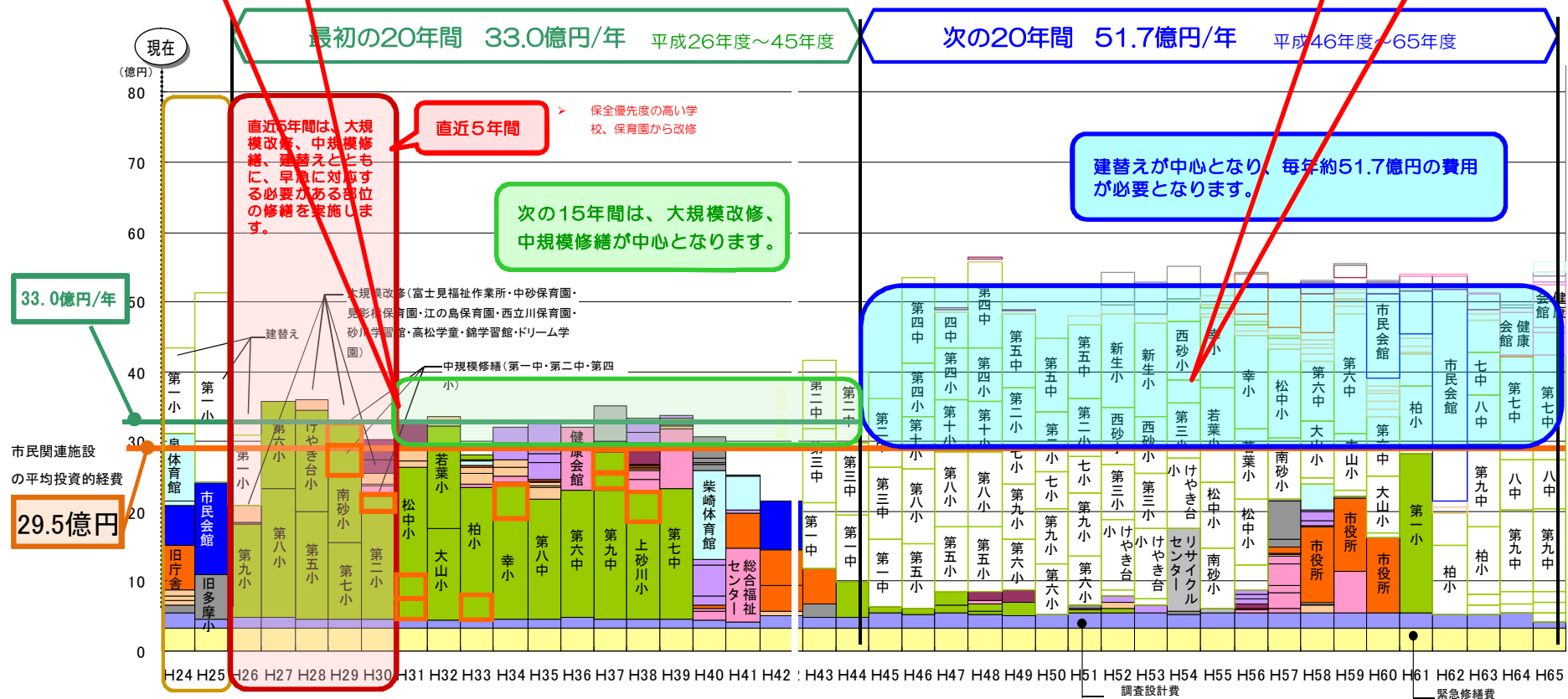
学校建替えの課題と視点

立川市公共施設保全計画

計画期間：平成26年～65年（40年間）

大規模改修予定
けやき台小：平成28年度
若葉小：平成32年度

校舎建替え予定
けやき台小：平成52年度
若葉小：平成55年度



「保全計画」により、最初の20年間のコストを年平均33億円まで圧縮するが可能となるが、平成46年度からの20年間は年平均51.7億円となる。「公共施設のあり方方針」では20年間年平均51.7億円のコストをかけることは不可能な状況であると分析している。

【出典：
立川市公共施設保全計画】
※上記は計画策定時の
ものであり、現在は
一部変更しております。

けやき台小学校と若葉小学校の 施設概要と「保全計画」スケジュール

●施設概要

児童数(普通学級)、学級数は平成27年5月1日現在

学校名	敷地面積	延床面積	建築年	児童数	学級数
けやき台小学校	15.977m ²	8,007m ²	昭和41年	516人	17学級
若葉小学校	16,441m ²	6,587m ²	昭和46年	220人	8+2学級

*敷地面積、延床面積は「立川市公共施設白書」(P37)のデータ。

*平成27年4月7日現在の普通学級の児童数を掲載。

*若葉小学校は特別支援学級(たんぽぽ学級)で+2学級となる。

●保全計画スケジュール

学校名	総合劣化度	大規模改修	費用(千円)	建替え予定
けやき台小学校	71.23	平成28年度	1,432,660	平成52年度～54年度
若葉小学校	63.25	平成32年度	1,458,918	平成55年度～56年度

*現況劣化度+築後年数=総合劣化度(平成24年度時点でのポイント)

けやき台小学校と若葉小学校の大規模改修費用の合計は約29億円となる。
「保全計画」では建物寿命を70年としており、大規模改修後20年～25年程度で建替えを行う。

第一小学校等複合施設の建設費用

小学校分の建替え費用は約37億円

●第一小学校施設構成

施設区分	延床面積	面積割合
第一小学校	8,780.83m ²	73.5%
柴崎学習館	2,407.02m ²	20.2%
柴崎図書館	517.30m ²	4.3%
柴崎学童保育所	240.57m ²	2.0%
合計	11,945.72m ²	100.0%

●主な建替え費用

(平成27年3月現在)

工事内容	金額(千円)
建築工事	3,244,827千円
強電、弱電、空調、給排水、昇降機、厨房、サイン、校庭等	1,122,801千円
設計、校舎解体、引越し、仮設校舎リース、備品等	602,069千円
合計	4,969,697千円

●小学校分の建替え費用

4,969,697千円 × 73.5%(面積割合) = 3,652,727千円 (約37億円)

第一小学校の建替えと複合化

第一小学校、柴崎学習館、柴崎図書館、柴崎学童保育所

2階昇降口



ワークスペース



第一小学校の建替え費用は小学校分が約37億円
安全かつ快適な学校施設

ワークスペースの配置やオープンタイプの教室など教育の新しい展開
学習館、図書館、学童保育所との複合施設

ジャンプ！届くかな



柴崎図書館



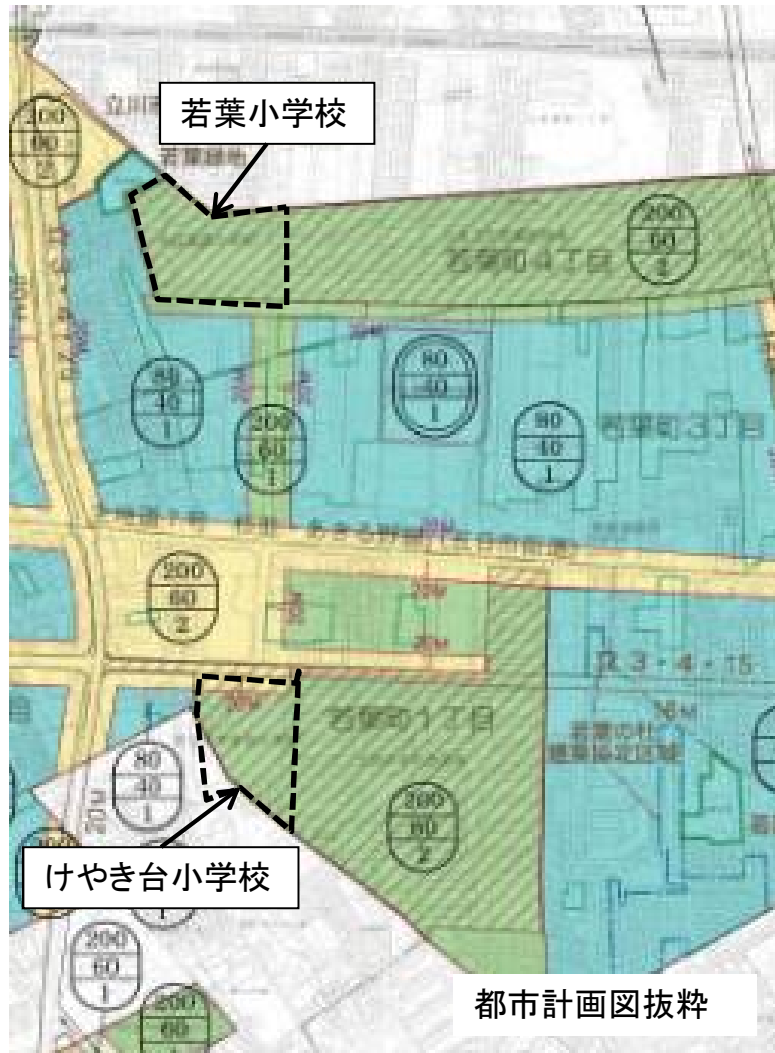
第一小学校の授業風景

新しい教育の展開



建築上の制約条件の整理

けやき台小学校と若葉小学校の敷地比較



比較区分	けやき台小	若葉小
敷地面積	15,977m ²	○16,441m ²
用途地域	第一種中高層住宅専用地域及び第一種住宅地域	第一種中高層住宅専用地域
建ぺい率	60%	
容積率	200%	
防火地区	準防火地区	
高度規制	第二種高度地区	
一団地区域	該当	該当
通学距離	○最長約1.5km	最長約2.0km
日影規制	○学校北側は住宅が少なく規制の影響は小さい	学校北側は住宅が密集しており規制の影響は大きい
その他	敷地の一部は国分寺市	—

学校建替えの方針

立川市公共施設保全計画

平成46年度からの20年間は年平均51.7億円の予算が必要となり、全ての施設を同規模に建替えを行うことは、限りなく不可能な状況である。

大規模改修と建替えの費用比較

けやき台小学校と若葉小学校2校それぞれの大規模改修を行い、大規模改修から25年程度を経過した後に建替えを行った場合と、両校を統合して1校を建替える費用を比較した場合、後者の方がより少ない費用で新たな教育環境を整備することができる。

教育の新しい展開

施設を70年寿命とするため、大規模改修はスケルトンに近い状態で建物、設備を改修する。一方、建替えは第一小学校の例のとおり教育の新しい展開が可能となる。ただし、この20年間で全ての学校を建替えることは費用面で困難。

建替え場所

両校を比較する中で敷地面積は若葉小学校が広い。しかし、若葉町南東地域から若葉小学校へ通学する場合は最も距離が長くなる。4階建て校舎はけやき台小学校が適している。

2校の統合を前提として
けやき台小学校の敷地で学校を建替える

学校建替えと新学校の設立

新生小学校の事例を参考とする



旧南富士見小学校



旧多摩川小学校



新生小学校開校

平成16年3月に2校を閉校

平成16年4月に新生小学校開校(旧多摩川小)
平成17年4月に改修後の校舎に移転

年度	内容
平成14年 4月	南富士見小学校と多摩川小学校を平成16年4月に統合することを教育委員会で決定。
7月	地域、学校、教育委員会が連携して取り組む「新校(モデル校)設立検討委員会」発足。
平成15年 4月	教育委員会は新校名を「新生小学校」と決定する。
5月	「新校マスタープラン」を策定。平成15年度にA棟、B棟実施設計。
平成16年 3月	南富士見小学校と多摩川小学校の2校を閉校。
4月	南富士見小学校と多摩川小学校を統合し、新生小学校を開校。 旧多摩川小の校舎で授業を開始。旧南富士見小学校の校舎等の改修事業に着手。
平成17年 2月	A棟、B棟の改修が完成。開校記念式典を開催。
3月	新校舎にて卒業式を開催。改修後の校舎へ移転。
4月	平成17年度1学期から改修後の校舎(旧南富士見小学校)にて授業開始。

児童への心理的な影響を考慮し、新生小学校設立の事例と同様にけやき台小学校と若葉小学校の2校を閉校し、若葉小学校を両校の児童が使用する時点で新たな学校を設立する。
けやき台小学校の敷地に新校舎が完成した時に移転する。

特別支援学級について

「きこえとことばの教室」と「たんぽぽ学級」

●けやき台小学校(通級指導学級) 昭和51年4月設置

学級名	障害種別	学級数	児童数	通学区域
きこえとことばの教室	言語障害	4学級	65人	五小、南砂小、けやき台小、若葉小八小、幸小、柏小、十小、九小、大山小、上砂川小、松中小、西砂小
	難聴	1学級	3人	市内全域

●若葉小学校(特別支援学級 固定) 昭和63年4月設置

学級名	障害種別	学級数	児童数	通学区域
たんぽぽ学級	知的障害	2学級	10人	けやき台小、若葉小、幸小

管理上及び指導上の負担が大きくなる等、通級指導学級と特別支援学級(固定級)を併設することは課題があり、今後、通学区域内の余裕教室がある学校への移設等を教育委員会内で検討する。

今後のスケジュール

マスタープラン作成～新学校設立

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
統合 建替え方針	方針決定						
建替え マスタープラン		作成					
基本設計 実施設計			基本・実施設計				
地域説明会	方針説明	マスタープラン・設計説明					
若葉小学校へ一時 移転(新校設立)							
仮設教室 (不足する教室分)			仮設建設	若葉小学校を使用し授業実施 (この時点でけやき台小学校と若葉 小学校を閉校し、新たな学校として スタートする。)			仮設解体
けやき台小学校改修 新学校建設(建替え)	調査	改修		校舎解体	建替え工事(2年)		移転

平成30年4月に新学校設立。
平成33年4月に移転。

新生小学校の設立時と同様に2校の児童が平成30年度に若葉小を使用した時から「新学校」とする。その後、平成33年度に建替えた校舎へ移転する。

今後のさらに検討が必要な事項

課題内容	検討方法
●登下校時の安全確保	登下校時は地域、保護者、シルバー人材センター等の協力を得て児童の安全を確保する。
●建替え費用(財源計画)	平成31年度以降の「保全計画」を見直し、予算の平準化を図るなどの対応が必要。
●特別支援学級「きこえとことばの教室」と「たんぽぽ学級」	固定級と通級学級を併設することは課題があり、今後、通学区域内の余裕教室がある学校への移設等を教育委員会内で検討する。
●建築上の制約条件	けやき台小学校は「一団地の住宅施設」に指定されており、複合化する施設が決定次第、都市計画課と協議し、東京都と交渉を始める。
●学校敷地の一部が国分寺市の行政区域にある	「地方自治法第244条」により、複合化する施設によっては国分寺市議会の議決が必要となる。

平成27年度スケジュール

方針決定～議会報告～地域への説明

区 分	4月	6月	8月	10月	12月	2月
庁内検討委員会	庁内検討					
総合教育会議	経過報告	方針協議				説明会報告
立川市	経過報告		方針協議・決定			説明会報告
教育委員会	経過報告		方針協議・決定			説明会報告
市議会		進捗報告		方針報告		説明会報告
地域説明会					地域説明会で方針説明	
けやき台小学校改修			改修箇所の調査		改修予算の計上	

8月に開催した教育委員会及び総合教育会議で方針(案)を協議し、9月の教育委員会で方針を決定。10月の文教委員会で方針を報告した後に若葉町地域での説明会を開催し、住民の合意形成を図る。